

目的 近年わが国における高齢人口は急激に増加し、短期間に高齢化社会を迎えた。高齢者化に伴ない寝たきり者の数も増加し、褥瘡の発生もみられる。高齢者の衣生活は如何にあればよいかという問いかけに対し、今回は褥瘡発生に關係深く、看護者の大きな負担となるオムツ及びオムツ・カバーを中心として、衣生活の実態調査を行い、問題点を探索し、高齢者の衣生活の設計に資し、シルバー産業の健全な育成について考究する。

方法 実態調査 対象：広島近郊居住の65才以上の寝たきり高齢者（男性28名女性25名）及びその介護者 方法：訪問面接聞きとりにより調査書記入

結果 1) アンケート対象者の平均年齢は78.3才であり、寝たきり期間は平均5年1ヶ月で6年以上は24%である。介護者は妻50%、娘24%、娘18%、夫8%である。介護者の年齢は62.6才で、高齢による介護上の問題点も多い。2) 排泄物処理方法は、男性は尿尿びんや採尿器を使用している人もかなりあるが、全体ではオムツを使用している人は68%と多い。紙オムツ使用は54%を占めるが、高齢者用の適当な紙オムツが市販されていないため、オムツ・カバーを使用している人が66%を占めている。3) オムツ・カバーの材質は市販されている合成繊維製品である。その形はオープンタイプが60%であり、その他巻きタイプ、丁字タイプが使用されている。オムツ・カバーの所持枚数は平均3.9枚である。4) オムツ取替回数は平均4.9回で8回以上は女性に多い。4) 介護で困っていることは体を動かすこと（オムツ交換、着替、体位交換）食事の世話、痴呆でオムツを外す。5) オムツ・カバーではムレる。サイズが合わない。マジックテープにゴミがつく。